



## 市政研究会 中村 浩 議員

- 1 単独公民館の指針について
- 2 Cバスについて

**質問1** 単独公民館長の報酬が他市と比較して低額であると思うが、見直しの考えは。単独館でも諸証明(住民票・印鑑証明書)の交付ができないか。また証明書自動交付機の設置はできないか。

**答弁1** 単独公民館の館長は地域からの推薦による就任で、非常勤嘱託職員としてお願いしているが、限られた財政状況であるので、その職務や勤務の実情も勘案し、今後研究したい。諸証明交付は、行政区単位に設置している地区市民センターを基本としたい。一方、

自動交付機の設置は多額の経費を要するが、市民課の証明窓口混雑解消の有力な手段であり、住民サービスにも繋がることから引き続き検討したい。

**質問2** 全市的な交通網整備の検討を進めていくにあたり先進事例(千葉県柏市等)の視察に職員を派遣してはどうか。

**答弁2** 職員派遣の視察先を検討する場合、本市が取り組もうとする方向性に合致している事例を調査、研究していくべきであるが、今後、他都市の先進事例の詳細な情報収集を行いながら、職員派遣については慎重に検討したい。柏市の事例についても参考にすべきところは積極的に情報収集していきたい。



## 公明党 森 しず子 議員

- 1 高齢者施策について
- 2 小学校5・6年生で始まる外国語活動について

**質問1** 高齢者保健福祉計画で、地域密着型サービスの基盤整備の事業実績と今後の計画を問う。また市営住宅の対応の現状と更新する道伯・十宮・玉垣地区の考え方は。

**答弁1** 現在、グループホームが13か所、小規模多機能型居宅介護事業所が4か所、認知症対応型通所介護事業所が3か所指定を受けている。今後も高齢者が身近な地域でサービスを受けられるよう取り組みたい。既存市営住宅のバリアフリー化や、高齢者・障害者世帯

に配慮した施設の改修を行っている。また「鈴鹿市版住生活基本計画」の策定に向け、現在、検討中である。

**質問2** 小学校5・6年生で始まる外国語活動について、学習指導要領改訂の趣旨等、本市の小学校の状況はどうか。本格実施に向けて今後の取り組みは。

**答弁2** 新学習指導要領において小学校外国語活動は、コミュニケーション活動を体験することで中学校の学習の素地を養うことを目標としている。現在は、国際理解教育の一環として取り組み、平成23年度に円滑に導入できるよう「小学校英語推進委員会」を立ち上げ、鈴鹿市版カリキュラムづくり等について検討を始めている。また、教育研究所において継続的、計画的に研修会等を開催していきたい。



## あくていぶ21 森 喜代造 議員

- 1 団塊世代の取り組みについて
  - (1) 定年後の就労について
  - (2) 地域の公民館活動の参加について
- 2 子供たちの安全確保について
- 3 災害時における職員の体制について

**質問1(1)** 遊休農地の有効活用を市はどのように考えているのか。農協が運営している農業大学の内容について。企業への仕事の斡旋はしているのか。

**答弁1(1)** 市は、ふれあい農園を開設する者に対し補助制度を設けており、農協が運営しているいきいき農業大学は年間40名を募集し、農場で実習をしている。高齢者の就労については、ハローワークやシルバー人材センターなどと連携して課題解決に取り組むたい。

**質問1(2)** 趣味やスポーツの集いの拠点づくりやサークルの見直しは考えているのか。

**答弁1(2)** 団塊世代の方の経験や能力を活用できる機会の提供に努め、サークル活動は自主性を尊重しながら、多くの市民の参加機会を提供していく。

**質問2** 不審者から子供を守る対策や登下校の交通安全対策、安全パトロール隊の活動内容について。

**答弁2** 市のメルモニで防犯メールの配信をして、登校時は保護者、下校時は地域の方々が主に交通指導や見守り活動をしていただいている。青色回転灯パトカーも毎日出動し防犯や不審者の抑止力になっている。

**質問3** 職員の緊急出動や防災訓練について。

**答弁3** 地域防災計画に基づき、災害発生時には非常配備体制を、平時は各種防災訓練を実施している。